

会 議 概 要 書

審議会等の名称	令和7年度第2回磐田市文化振興委員会
担当部課名	自治市民部 文化振興課
会議の開催日時	令和8年2月5日（木）午前10時00分から午前11時30分
開催場所	磐田市民文化会館「かたりあ」創造活動室1
出席者（職・氏名）	学識経験者5名 市議会議員1名 市民の代表者1名 以上7名
議 題	① 令和7年度 磐田市文化芸術振興計画 実施報告について ② 令和7年度 磐田文化振興会事業 結果報告について
配付資料等の件名	・会議次第 ・（資料1）令和7年度 第2次磐田市文化芸術振興計画 実施計画（中間報告） ・（資料2）令和7年度 磐田文化振興会事業
概 要	<p>【会議内容、主なご意見・質疑】</p> <p>① 令和7年度 磐田市文化芸術振興計画 実施報告について</p> <p>委 員：IWATA DANCE EVOLUTION のワークショップの応募者が昨年度より減少したというのは参加者ではなく観る方が減少したということか。</p> <p>オブザーバー：IWATA DANCE EVOLUTIONについては、一般チームと参加者は変わってない。観覧者のチケットは完売の状況だった。小学1年生から6年生までの子どもたちがワークショップをやって、舞台上がるという取り組みをやってるが、若干減った。</p> <p>委 員：「SPO☆CUL IWATA」の一つである「磐田ユースウィンドオーケストラ」とあるが、部活動の一環として市内全域から参加できるということによろしいか。</p> <p>事務局：今年の9月から中学校の部活動を地域展開ということで、土・日曜・祝日を地域の方にやってもらうということを行っている。「磐田ユースウィンドオーケストラ」は、大会出場を目指さない「まずは吹奏楽を楽しもう」というような趣旨で部活動をやられている。その場所として、磐田市民文化会館の部屋を提供している。市内中学生であれば誰でも参加することができる。</p> <p>事務局：ユースウィンドは、プロのミュージシャン3名で立ちあげた団体で、平日ではなく土・日曜を中心に活動をされている。市内全域から参加しているし、ユースウィンドを卒業された高校生もボランティアに入っているので、部活とは少し違っ</p>

た形での活動をしている。

委員：市の評価と課題を掲載しているが、どのような形で評価され、あぶり出しを行われたのか。

事務局：評価については、設定した目標に対して、実施したことに対して市としてどういうことを評価するかという視点で、評価した。全てできているかというところではないので、令和8年度以降、どういう取り組みにつなげていくかという意味で課題を書いている。

委員：評価のところで、「光と音の魔法が織りなす クリスマスナイト」は、にぎわい創出につなげることができた」とあるが、具体的に人数とか感想があったら教えていただきたい。また、「かたりあのリフトアップにより、社会課題の周知」というのは、どういったことを周知されたのか。

事務局：「光と音の魔法が織りなすクリスマスナイト」は、12月25・26日の2日間夕方6時半から2時間ということで、交流ロビーという場所を使って壁面にプロジェクションマッピングを行った。12月の少し前くらいからPRをしたところ、2日間で1,400人くらいお越しいただき、いろいろなご意見をいただいた。プラスの評価としては、「こういうところで見られるというのはすごく良かった」という意見もあれば、「子ども向けがあるといいね」とか、若干「もっとすごいものかなあと思っていた」というご意見もいただきました。そういうところは、反省をしながらこれからはにぎわいに参加してくれる人と共創しながら、やっていきたい。

社会課題の関係は、福祉の部門や環境の部門がある。例えば、環境の日というのがあって、それに対して全国的にグリーンで周知しようというのがある。実際にお城にやったり、何かの建物にやったりしている例があるが、磐田市民文化会館が交通の非常に目立つところにあるので、これを活用してこの日に合わせてPRするのに周知協力している。

委員：リフトアップに関しては、上の方が外から目立つ。でもその色の意味がよく分からないということがあって、そこが周知できるともっと効果的かなと思った。

事務局：リフトアップがされた際には「かたりあ」のSNSで「今かたりあは、こんな色になっています」「これは、〇〇を皆さんに考えてもらう機会にしたいです」などの内容でインスタグラム等で発信しており、広げていきたいと考えている。

委員：「優れた」とか「質の高い」とか「本物」とかという言葉は、どこの会館も目指すところではある。何が本物かという話もよく聞くところではあるが、これから演劇中心だったり音楽が中心だったり舞踊かもしれないが、どんなものを目指しているか考えているか。

県のグランシップと連携した事業の実施というのは、どの位置づけにあるのか、今回たまたまご縁があったのか、今後も引き続いてあるのかも含めて教えていただきたい。

それからサポーターの皆さんが 53 人いるということで、文化会館にサポーターの方たちが活動しているというのは、なかなか良いことで文化施設であるべき大事なところであると思う。資料の中には、具体的にいつどこで何をしてどれだけのことをしたかということが、あまり記載がないので、知りたいというところと、サポーターの皆さんが「かたりあ」をアピールしてくださる人になるかもしれないので、一緒になってやっていく方法を考えているかどうか。

事務局：まず 1 点目のどういう方向に磐田市として行くのかということだが、磐田市はミュージカルであるとか高校生であるとかダンスというところの特徴的な部分はあると思う。ただ、現時点でそういうところの文化芸術に特化していくかというところと市民がやってくれるところもあるので、まずは市民が動かしていただいた中でどういう方向に向いていくことがいいのかというのは、今後の検討課題だと思う。

事務局：県のグランシップとの連携については、なかなか毎年の計画はいろいろな都合があり難しいと思うが、県で本物のオーケストラでや演劇というところも大きく周知してこられるところがあるので、そういう機会はタイミングが良ければ取り入れていければと思っているし、県が持っている情報を市の何かにかしていければと思っている。

サポーターの活動は、当日の運用だけではなく、事前準備の配架するチラシの挟み込みなどの作業もやっていただいているので、年間 60 回くらい活動としてはある。そこに 53 人の中から出られる方が出ている。令和 5 年「かたりあ 1 周年記念」ということで熊谷真美さんをお呼んだイベントがあったが、それはサポーターの皆さんが企画して当日の運営までやっていただいたイベントになる。またやれる機会があったらやりたいというお声があったので、かたりあ 5 周年とか区切りの時に何かサポーターさんの意見から出たイベントをやっていただけるといいなと思っている。

② 令和 7 年度 磐田文化振興会事業について

委員：定員だが、市民文化会館は 1500 人が入ると思うが、例えば中には 1,008 人とある。制限をかけているということでのいいのか。

オブザーバー：各公演ごとに目標集客率（集客人数）を設定している。

使い方によって 1 階部分だけでいくとだいたい 1,000 席になり、2 階を開放すると 1500 席という考え方の中で、公演

	<p>によっては1階だけで 1,000 目標でやっていこうという公演も多々ある。あくまでも定員という形をとりながら集客目標人数という形でやっている。かたりあ以外の施設ではそのキャパシティに合わせた集客を行っている。</p> <p>委員：金額の設定というのは、主催者が設定するのか磐田文化振興会が設定するのか。</p> <p>オブザーバー：金額については、基本的にはイベンターを通してやる場合と直接やる場合があるが、主導をとれるのは主催者。少しでも安く磐田市民なり近隣の方に観ていただきたいということで、下げられるかどうかという交渉はいつもやっている。</p>
備 考	